

原資料の分析に基づく図書館情報学アーカイブズの構築

田中僚^{†1} 芦川大樹^{†1} 松村敦^{†2} 宇陀則彦^{†2}

近年、「デジタルアーカイブ」という言葉は一般に浸透しつつあり、様々なデジタルアーカイブが公開されている。しかし、現在デジタルアーカイブという言葉は、単なるデジタル資料を保管・提供するサービスの総称として利用されることが多く、ここには、本来の意味での「アーカイブズ」の姿は見られない。本稿では現状のデジタルアーカイブの問題点を指摘するとともに、本来の「アーカイブズ」を反映したデジタルアーカイブの構想を提案する。

Construction of the Library Information Science Archives based on the Analyzing the Original Collection

Ryo Tanaka^{†1} Daiki Ashikawa^{†1}
Atsushi Matsumura^{†2} Norihiko Uda^{†2}

Recently, various digital archives have been constructed, and the word "digital archive" generally circulated. However, the word digital archive is often used as a generic name of the services that only keeps and provides digital documents, and there is not the feature of "the archives" in the original meaning. In this paper, we point out problems of the present digital archive, and propose a design of the digital archive which reflected original "archives".

1. はじめに

現在、「デジタルアーカイブ」という言葉は一般にも浸透しつつあり、様々なデジタルアーカイブが公開されている。しかし、現在存在するデジタルアーカイブの多くは月尾嘉男が初めて「デジタルアーカイブ」という言葉を用いた際の、「有形・無形の文化資産をデジタル情報の形で記録し、その情報をデータベース化して保管し、随時閲覧・鑑賞、情報ネットワークを利用して情報発信」という概念を表しており[1]、文化資産の閲覧・鑑賞・情報発信を主な目的としている。図書館や歴史資料館等が保存している「アーカイブズ」をデジタル化したサービスとしての「デジタルアーカイブ」というより、文化資産をデジタル化して公開する「デジタルギャラリー」や「デジタルミュージアム」として捉えられている。しかしながら、本来のアーカイブズの資料はアーカイブズ特有の性質を持っているため、特有の性質を保ったままデジタル化して保管、また閲覧・鑑賞・情報発信するためにはアーカイブズ学の知識を用いてデジタルアーカイブを構築する必要がある。そこで本稿では、アーカイブズ学本来の意味としてのデジタルアーカイブの構想について提案する。

2. アーカイブズの定義

まず、本稿における「アーカイブズ」の定義を示す。アーカイブズは国際文書館評議会監修のアーカイブズ学の語彙集によって定義され[2]、岡崎によって以下のように和訳

されている[3]。

- (1) ある法人あるいは個人が、その活動の過程で作成、受領し、さらに組織固有の必要のために、それを形成させる主体あるいは後継者によって保管されるか、あるいはアーカイブズ上の価値のゆえに、適正な資料保管組織に移管される資料の総体で、日付、形態、物的支持体の如何を問わない。
- (2) アーカイブズ資料の処理、目録化、保存、公開のための専門機関。
- (3) アーカイブズを保存、公開するための建物。

また、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会監修の『文書館用語集』における「史料」の項目には「個人または組織がその活動の中で作成または収受し、蓄積した資料で、継続的に利用する価値があるので保存されたもの」と定義されている[4]。これらの定義に共通していることは、「アーカイブズ」とは「個人や組織の活動の過程で作成された資料のうち、価値があるため保存されたもののみ」ということである。これを本研究におけるアーカイブズの定義とする。

また、岡崎はアーカイブズの定義に「アーカイブズ資料は必ず、業務や法関係管理を反映する「かたまり」として蓄積される」と補足している。また、アーカイブズの定義における価値について「アーカイブズ資料は、裁判等において有力な証拠として採用されるべき価値を持つ。このような価値を有するかけがいのない状態をオリジナルと称し、単なる複製と激しく区別される。」と述べている。つまり、アーカイブズの資料は証拠としての価値を保ちつつ、出所機関の活動を反映した「かたまり」の状態でも保存する必要があると言える。本研究におけるデジタルアーカイブは、

^{†1} 筑波大学情報学群知識情報・図書館学類
College of Knowledge and Library Sciences, School of Informatics, University of Tsukuba.

^{†2} 筑波大学図書館情報メディア系
Faculty of Library, Information and Media Science, University of Tsukuba.

アーカイブズ同様にこの性質を持つものとする。

3. アーカイブズの三原則

アーカイブズの構築において守る必要がある原則として「出所原則」「原秩序尊重の原則」「原型保存の原則」がある[5]。出所原則とは、史料を、それを作成、授受、保管してきた機関・団体ごとの文書群としてとらえ、他の出所をもつ文書群と混同して整理されてはならない、という原則である。原秩序尊重の原則とは、出所を同じくする文書群の中で、それを生んだ機関・団体の活動の体系を反映している原秩序を尊重して残さなくてはならない、という原則である。原型保存の原則とは史料の原型、文書の折り方、閉じ方、包み方など、記録史料の物理的原型をむやみに変更してはならない、という原則である。

資料の整理・保存の段階でこれらの原則を守ることにより、文書群のまとまりを残し、出所や構成、組織の活動体系を保存した状態でアーカイブズを構築することができる。また目録や索引等の検索手段の作成においても、文書群を出所機関の活動との関連を体系的に提示し、特徴を理解した状態で文書の利用を可能にするためには、必須の条件である。

4. 現状のデジタルアーカイブの問題点

前章にてアーカイブズの構築において「出所原則」「原秩序尊重の原則」「原型保存の原則」を守ることが必要であることを述べた。これらの原則は、本研究で取り扱うアーカイブズ学におけるデジタルアーカイブにおいても同様に守る必要がある原則である。しかし、現在公開されているデジタルアーカイブではこれらの原則を守って構築されたデジタルアーカイブはほとんどない。この原因としてキーワード検索やカテゴリ検索、主題別検索といった原則を無視した検索機能を用いていることが挙げられる。これらの検索機能は多くは、主題や形態、資料に関するキーワードから資料へアクセスしたいという利用者のアクセス要求に応えることを目的としている。しかしながら、アーカイブズの資料は「かたまり」として蓄積され、出所機関と資料の関係性が重要とされる。資料の持つまとまりを無視した安易な検索機能は、資料の持つ情報を利用者へ提供することの妨げになる。出所機関と資料の関係性を保ちつつ資料へ到達する、資料群の構造に基づいた検索手段を作成することが、アーカイブズ学におけるデジタルアーカイブでは必要である。

5. 図書館情報学アーカイブズの構築

5.1 図書館情報学アーカイブズ概要

これまで「出所原則」「原秩序尊重の原則」「原型保存の原則」の三原則を守りデジタルアーカイブを構築することが、アーカイブズ学におけるデジタルアーカイブでは必要

であると述べてきた。そこで、我々は実際にデジタルアーカイブを構築し検証を行った。対象として用いた資料は筑波大学図書館情報メディア系のプロジェクトである「21世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ構築のための予備的研究：筑波大学図書館情報メディア系前身校関連資料の総合的解明」で扱った資料（以下、図書館情報学アーカイブズと称す）である。この筑波大学図書館情報メディア系のプロジェクトでは、文部省図書館員教習所・図書館講習所から図書館情報大学にいたる図書館員養成専門機関の資料を未整理で残されていた状態からアーカイブズへと変え、図書館情報学史の研究基盤を築き上げることを目的としている。

図書館情報学アーカイブズの資料は大正10年に設立された文部省図書館員教習所から文部省図書館講習所、国立(帝国)図書館附属図書館職員養成所、文部省図書館職員養成所、図書館短期大学、図書館情報大学、筑波大学図書館情報専門学群、現在は筑波大学情報学群知識情報・図書館学類へと変遷していった図書館員養成専門機関とその同窓会、いくつかの外部機関を出所機関としている。『図書館情報大学研究報告 1985.4巻1号』といった研究報告や『VIカウンター業務マニュアル』や『II公開図書室資料収集に関する資料』というような附属図書館の運営資料、また同窓会会報や出所機関の各時期の写真を含んでおり、その形態も冊子や雑誌、本、チューブファイルやアルバムなど様々である。これらは現在確認しているだけで1000点以上存在しており、その一部を付録に示した。

5.2 プロトタイプシステムの構築

前節で示した図書館情報学アーカイブズの資料を用い、我々はプロトタイプシステムとして「出所原則」「原秩序尊重の原則」「原型保存の原則」の三原則を守ったデジタルアーカイブの構築を行った[6]。プロトタイプシステムは出所による資料群、原秩序に基づく資料群、個々の資料へと三原則に従ったまとまりごとに段階的にアクセスさせる階層構造で構築した。またその際、出所機関の変遷や資料群が出所機関の活動においてどの時期にあたるかを直感的に理解させる、年表形式を用いたインターフェースを作成した。

評価実験はアーカイブズに関する知識を有しているアーカイブズ学の研究者と国文学研究資料館職員を対象として、システムをWeb上で利用し、5点尺度のアンケートに回答する形式で行った。アンケートではプロトタイプシステムによって、ユーザはアーカイブズの三原則を理解できるか、即ち、資料のまとまりや情報を表現できているかを評価した。

実験の結果、資料の出所機関については十分理解でき、出所の原則は守れたという結果が得られた。一方で、資料の原秩序に基づく出所機関の活動と資料との関連性、また資料の体系についての情報を提供できていなかったという問題も得られた。この問題の原因として、デジタルアーカ

イブの構築において対象としていた図書館情報学アーカイブズの資料は、アーカイブズとして十分に整理されていなかったことが考えられる。「出所原則」「原秩序尊重の原則」「原型保存の原則」の三原則に基づいたデジタルアーカイブの構築には、アーカイブズの構築と同様に原資料の調査・分析を行い、資料群の成り立ちや構造といった資料の原秩序、また資料間の関係性を把握することが必要であることが判明した。そこで、一部の資料を対象に調査・分析を行った。

6. 図書館情報学アーカイブズ資料の分析

プロトタイプシステムの構築において用いられた資料のデータは、資料の整理手順のうち、第一次整理の途中段階のデータであった。このデータの作成は担当者が別であり、プロトタイプシステムの作成者は整理作業を行っていなかったことが評価実験で得られた問題の原因と考えられた。そこで新しくデジタルアーカイブを構築するにあたって、一部の資料を対象に、第一次整理のデータをもとに調査を行った。その結果、新しく資料群のまとめりや関連性が明らかになった。その一つが昭和60年に導入された図書館情報学における図書館業務トータルシステム LIAISON に関する資料群である。

図書館情報学アーカイブズの資料には『ACCAM 基本設計書』や『ACCAS 操作手順書』、『貸出・返却システム基本設計書 第一版』といった図書館の業務に関わるシステムについての資料が存在する。これらの資料に対して、資料一点一点を概要や状態について調査し、出所機関の活動年報や年表と照らし合わせ、出所機関の活動と資料の関係性について分析を行った。その結果、これらの資料は図書館情報学時代に開発された、貸出、返却サブシステム (CIRCULATION)、図書管理サブシステム (ACCAM)、逐次刊行物管理サブシステム (ACCAS)、検索システム (TOOL-IR on ORION) から構成される図書館業務トータルシステム LIAISON の開発・導入・運用の際に作成された資料であることが判明した。これは LIAISON の開発という出所機関の活動に関する資料群としてのまとめりと言えるだろう。またこの資料群は『V 機械化移行に関する資料』や『VI カウンター業務マニュアル』といった図書館業務システム導入後の附属図書館の運営に関する資料群とも関係性があることが言えるだろう。

このように原資料の整理を行い、資料と出所機関の活動との関連性、また資料同士の関連性について調査・分析することで、資料群本来の構造を把握することができる。今後さらに多くの資料について整理を行うことで、より正確な資料群の構造の把握が期待できるだろう。

7. 今後の構想

本稿では、現在増加しつつあるデジタルアーカイブに

ついて、原資料の持つ情報を十分に利用者へ提供することができる、アーカイブズ学本来の意味としてのデジタルアーカイブの構築について述べた。そしてアーカイブズ学におけるデジタルアーカイブは「出所原則」「原秩序尊重の原則」「原型保存の原則」の三原則を守る必要があること、そのためには原資料の分析を行い、資料群の成り立ちや構造、また資料間の関係性を把握することが必要であることを示した。今後は図書館情報学アーカイブズの資料を対象にデジタルアーカイブを構築するにあたって、さらに多くの資料を整理し、調査・分析を行っていく。また分析の結果に基づき把握した資料群の構造をデジタルアーカイブ上で表現する方法については、資料整理後の課題としたい。

謝辞 本研究は、JSPS 科研費 26280117 および、筑波大学図書館情報メディア系プロジェクト研究の助成による。

参考文献

- 1) 影山幸一。“デジタルアーカイブという言葉を生んだ月尾嘉男”。美術館・アート情報 artscape. http://www.dnp.co.jp/artscape/artreport/it_k_0401.html, (参照 2014-07-03).
- 2) Dictionnaire des archives. De l'archivage aux systèmes d'information (1991).
- 3) 岡崎敦:アーカイブズ, アーカイブズ学とは何か, 九州大学附属図書館研究開発室年報, 2011/2012, pp. 1-10(2012).
- 4) 文書館用語集研究会編: 文書館用語集, pp. 65, 大阪大学出版会 (1997).
- 5) 小川千代子, 高橋稔, 大西愛: アーカイブ事典, pp. 318, 大阪大学出版会(2003).
- 6) 芦川大樹: アーカイブズの三原則に基づいた情報アーキテクチャの設計, 筑波大学, 学士論文(2014).

付録

図書館情報学アーカイブズ資料

出所機関	資料名
図書館情報大学	I 公開図書室運営専門委員会に関する資料
図書館情報大学	II 公開図書室資料収集に関する資料
図書館情報大学	III 公開図書室業務及び運営費に関する資料 III-1 業務関係 8~15
図書館情報大学	III 公開図書室業務及び運営費に関する資料 III-1 ボランティア関係 16
図書館情報大学	III 公開図書室業務及び運営費に関する資料 III-2 運営費 17~18
図書館情報大学	IV 公開図書室業利用状況に関する資料
図書館情報大学	V 機械化移行に関する資料
図書館情報大学	VI カウンター業務マニュアル
図書館情報大学	IX サークル活動の記録
図書館短期大学	図書館短期大学別科(特別養成課程) 第12期生(昭和50年度) 終了記念アルバム
図書館短期大学	図書館短期大学別科 1977年度第12期生終了記念アルバム
図書館短期大学	昭和53年度図書館短期大学別科卒業記念アルバム
図書館短期大学	学園紛争時の記録
図書館短期大学	図書館短期大学図書館のアルバム
図書館情報大学	84' 図書館情報大学
図書館情報大学	85' 図書館情報大学
図書館情報大学	86' 図書館情報大学
図書館情報大学	87' 図書館情報大学
図書館情報大学	88' 図書館情報大学
図書館情報大学	89' 図書館情報大学

図書館情報大学	1989～1993 ULIS
図書館情報大学	95' 図書館情報大学
図書館情報大学	96' 図書館情報大学
図書館情報大学	97' 図書館情報大学
図書館情報大学	98' 図書館情報大学
図書館情報大学	昭和 54 年度のアルバム
文部省 図書館講習所	文部省図書館講習所記念写真集
図書館短期大学	昭和 53 年度のアルバム
図書館情報大学	学生派遣報告書
図書館短期大学	図書館短期大学文献情報学科第四期卒業記念
図書館短期大学	筑波研究学園都市構想とその問題
図書館情報大学	昭和 56 年度学生名簿
図書館情報大学	昭和 57 年度学生名簿
図書館情報大学	昭和 58 年度学生名簿
図書館情報大学	昭和 59 年度学生名簿
図書館情報大学	昭和 60 年度学生名簿
図書館情報大学	FEED BACK 図書館情報大学新聞部
図書館情報大学	樹林 創刊号
図書館情報大学	樹林文学賞特集第 2 号
図書館情報大学	ACCAM 操作手順書
図書館情報大学	貸出返却システム (マニュアル 旧版)
図書館情報大学	ACCAS 操作手順書
図書館情報大学	機械化機能説明書
図書館情報大学	ACCAM 基本設計書
図書館情報大学	貸出・返却システム基本設計書 第一版
図書館情報大学	貸出・返却サブシステム 基本設計書 1 版
図書館情報大学	貸出・返却システム (業務仕様書・議事録他)
図書館情報大学	貸出・返却システム (資料集)
図書館情報大学	LIAISON 開発報告書 -図書館情報大学における図書館業務トータルシステム-
図書館情報大学	図書館業務機械化 WG 検討会 逐次刊行物管理システム 機能構成図・業務資料書フローチャート
図書館情報大学	図書館情報大学研究報告 1985.4 巻 1 号
図書館情報大学	図書館情報大学研究報告 1985.4 巻 2 号
図書館情報大学	図書館情報大学研究報告 1986.5 巻 1 号
図書館情報大学	職員録昭和 59 年度
図書館情報大学	職員録昭和 60 年度
図書館情報大学	職員録昭和 61 年度
図書館短期大学・図書館情報大学	図書館短期大学・図書館情報大学歴代教職員名簿
図書館情報大学	図書館情報大学教官総覧 1998
図書館情報大学	図書館情報大学教官総覧 2000
同窓会 (橋会)	橋会会員名簿 1982
同窓会 (橋会)	橋会会員名簿 1994
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第三巻(旧字) 第二号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第三巻(旧字) 第四号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第四巻(旧字) 第三・四号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第五巻(旧字) 第二・三・四号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第六巻(旧字) 第一号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第九巻(旧字) 第一号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第二十巻(旧字) 第一号(旧字) 一・二月合併号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第十二(旧字) 巻(旧字) 第三(旧字) 号(旧字) 四月号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第十二巻(旧字) 第四号(旧字) 五月号
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第十二巻(旧字) 第五号(旧字) 六月号
図書館職員養成所	図書館研究復刊第一号
図書館職員養成所	図書館研究復刊第二号
図書館職員養成所	図書館研究復刊第三号
図書館職員養成所	図書館研究復刊第四号
同窓会 (學友會)	学友会雑誌第八号(旧字)
同窓会 (圖書館講習所)	會報第三号(旧字)
同窓会 (圖書館講習所)	會報第四号(旧字)

同窓会 (圖書館講習所)	會報第七号(旧字)
同窓会 (圖書館講習所)	會報第八号(旧字)
同窓会 (圖書館講習所)	會報第九号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	書架考書庫と濕氣川崎操著芸艸會パンフレット・第二册芸艸會發行
同窓会 (芸艸會)	町村圖書館論要項三宅千代二著芸艸會パンフレット第三册芸艸會發行
同窓会 (図書館職員養成所)	図書館(旧字) 職員養成所同窓会三十年記念誌
同窓会 (図書館職員養成所)	新制十周年記念会員名簿 1959.6.1
同窓会 (図書館短期大学・橋会)	創立 50 周年記念会員名簿 1970.3
同窓会 (図書館短期大学・橋会)	会員名簿 1970-1977
同窓会 (図書館短期大学・橋会)	会員名簿・追補 1970-1972
同窓会 (図書館情報大学)	卒業生就職先一覧 1980 年 3 月
同窓会 (図書館短期大学・橋会)	会員名簿・追補その 2 1973-1975
同窓会 (図書館短期大学・橋会)	会員名簿 1978・1979
同窓会 (図書館情報大学)	卒業生就職先一覧 1980 年 3 月
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第十二(旧字) 巻(旧字) 第二(旧字) 号(旧字) 三月号(旧字)
同窓会 (図書館職員養成所)	会員名簿(旧字)
同窓会 (図書館職員養成所)	会員名簿昭和二十六年九月一日現在
同窓会 (芸艸會)	芸艸會雑誌第二巻(旧字) 第三号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	芸艸會雑誌第二巻(旧字) 第四号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	芸艸會雑誌第三巻(旧字) 第一号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	歌舞伎興行略年表第一編(旧字)(図書館研究第三巻(旧字) 第三号(旧字))
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第四巻 (旧字) 第一・二号(旧字)
同窓会 (芸艸會)	芸艸會雑誌第二巻(旧字) 第四号(旧字)
同窓会 (図書館職員養成所)	図書館職(旧字) 員養成所同窓会会報復刊第 1 号
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第十巻(旧字) 太田先生記念書口ク研幾編
同窓会 (芸艸會)	図書館研究第七巻(旧字) 第一号(旧字)図書館(旧字) 講習(旧字) 所創立十年記念